

経営協議会議事要旨

1. 日時 令和3年1月19日(火) 13:30～15:10
2. 場所 創立50周年記念会館2階 岩木ホール及びWEB会議のツールの併用
3. 出席者 福田(学長・議長)
今井、岡井、櫛引、熊地、永澤、九戸、木村、三國谷
吉澤、渡邊、郡、若林、石川、大山、安川の各委員16名
- 欠席者 青山委員1名
- 陪席者 山内監事、吉田監事、柏倉学長特別補佐、杉原国際連携本部長、加藤法人
内部監査室室長
- 事務部陪席 太田参事役(病院再開発担当)(兼)経営企画課長、阿部総務部長、飯田
財務部長、小椋学務部長、中西施設環境部長、齊藤研究推進部長(兼)社
会連携部長、村市医学部附属病院事務部長、大川総務広報課長、古舘学長
戦略企画課長、後藤人事課長、金沢調整役、浅利財務企画課長、加藤財務
管理課長、齋藤契約課長、穴戸施設企画課長

4. 配付資料

- 資料1 ガバナンス・コードについて
- 資料2-1 国立大学法人弘前大学の令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
(概要)
- 資料2-2 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人弘前大学
- 資料2-3 国立大学法人等の令和元年度評価結果について
- 資料3 令和2年度就職内定状況(令和2年12月15日現在)
- 資料4 弘前大学の最近における新型コロナウイルスへの対応状況
- 資料5 弘前大学の令和3年度運営費交付金について
- 資料6 2020年度余裕金運用状況一覧
- 資料7 令和2年度内部監査結果報告書
- 資料8 附属病院診療機能強化に伴う土地・建物の受入の完了について

5. 議事

- ・ 議長から、11月17日開催の議事要旨(案)の確認が行われ、原案のとおり承認された。

○審議事項

審議1 ガバナンス・コードについて

渡邊総務担当理事から、資料1に基づき、本学のガバナンス・コードの実施状況について説明があった。学長から、追加の意見があれば令和3年1月29日までに出していただくよう依頼があり、今後のスケジュールとして、修正を反映した上で紙上会議を開催し、令和3年2月末までに本学ホームページで公表する予定であることの説明があった。

○報告事項

報告1 国立大学法人弘前大学の令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について

吉澤企画担当理事から、資料2-1～2-3に基づき、令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果について報告があった。

報告2 令和2年度就職内定状況について

郡教育担当理事から、資料3に基づき、令和2年12月15日現在の令和2年度就職内定状況について報告があった。

報告3 弘前大学における新型コロナウイルスへの対応について

渡邊総務担当理事から、資料4に基づき、弘前大学の最近における新型コロナウイルスへの対応状況について報告があった。

報告4 弘前大学の令和3年度運営費交付金について

渡邊総務担当理事から、資料5に基づき、令和3年度運営費交付金について報告があった。

報告5 2020年度余裕金の運用状況について

渡邊総務担当理事から、資料6に基づき、2020年度余裕金の運用状況について報告があった。

報告6 令和2年度内部監査（基本監査項目）の結果について

加藤法人内部監査室長から、資料7に基づき、令和2年度内部監査（基本監査項目）の結果について報告があった。

報告7 附属病院診療機能強化に伴う土地・建物の受入の完了について

大山病院長から、資料8に基づき、附属病院診療機能強化に伴う土地・建物の受入の完了について報告があった。

報告8 中期目標・中期計画の変更手続き等について

吉澤企画担当理事から、中期目標・中期計画の変更はないことについて報告があった。

○質疑応答（□：学外委員 ○：学内委員）

1 ガバナンス・コードについて

□ 学生の満足度についてホームページに公表しているとあるが、在学生に対しての授業評価アンケートと卒業生や就職先企業等に対するアンケートの両方を公表しているのか。

○ 両方とも本学ホームページ上で公表している。

□ 共同研究講座に関する記述を見ると財源確保のために設置しているように読めるが、財源確保のためか、目的があって設置していて同時に財源確保にも役立っているということなのか。

○ 目的は財源獲得ということではないが、企業との共同研究の場合は企業に財源を出してもらうという形になる。一般に国が外部資金獲得状況を調査するとき共同研究を含めており、大きい共同研究講座になると目的とともに

財源獲得にもつながる。

- 数値目標を掲げていると記述があるが、大学での数値目標はどういった形で掲げられているのか。
- 数値目標については中期計画でいくつか掲げている。例えば外国人教員数や女性の比率など。定量的に達成されたかどうかの指標として求められており掲げている。

2 令和2年度就職内定状況について

- 教育学部の内定率が約50%である理由は、教員免許の取得と関係あるのか。
- 卒業要件として教員免許を取得するので教員免許の取得と内定率は関係はない。正規採用数が少ないので、12月15日現在では内定率が低くなっているが、非常勤での採用等があるので、例年最終的には90%近い内定率になる。
- 正規採用が少ないというのが大きなトレンドなのだとすれば、何か考えているのか。
- インクルーシブ教育など特色ある教員養成をしていくことを考えているので現員規模で進める予定である。
- 国が少人数教育を推進しているので、教員の需要は増えてくると考えている。

- 保健学の学生の内定率が高いのはコロナの影響があるのか教えていただきたい。
- 例年高い。資格を取得しそれを活かして就職していることが大きい。

3 弘前大学における新型コロナウイルスへの対応について

- 教室の換気実験に関する発表が共同通信や時事通信で記事として配信され、全国の地方紙でも取り上げられており誇りに思う。
- 北国ならではの問題に対応する換気方法なので、特に東北・北海道で参考になればと思っている。

4 令和2年度内部監査（基本監査項目）の結果について

- 病院の収益の見込みはいつの時点のものか。
- 資料の数字は昨年9月の監査時点のものである。
- 損益ベースでは借入金を含むため、マイナスになると思われるが、この状況は恒常的であるのか。あるいはコロナの特殊事情が影響しているのか。
- 令和2年はコロナの特殊事情が影響している。なお、全国の同規模国立大学病院間で比較すると、本院は良好な収支となっており、年度末時点での損益ベースでは、プラスになる見込みである。
- 全国的に外来自体が抑制的になっていると聞くと、患者の動向や医療の在り方は大きく影響したか。
- 外来患者数は2割程度減少したが、減少したのは軽症患者が多く、特定機能病院としての治療を要する患者数はほとんど減少していない。患者数は減少したが、患者1人あたりの単価が上がっているため、全体の収入としてはそれほど落ち込んでいない。患者の動向や病院機能については、4月～6月の年度当初の落ち込みが大きかったが、その後コロナへの対応が整ってきたので、持ち直している。

□ オンライン留学とはどのような取組か。また、コロナ禍の状況で留学生はどのような状況か。

○ オンライン留学とは、海外の大学で行われる授業を自宅等に居ながらインターネットを通じてオンラインで受講するバーチャルな留学のことである。今年度試行的に実施したところ学生から好評であり、今後も継続していく予定である。

海外協定校からの交換留学生は、令和2年度前期で35名在籍していたが既に全員帰国している。10月からの後期は交換留学生の受入れを停止しているが、令和3年4月の受入れに関しては、国の基準に従って対応していく。

以上